

- CAMERON, M., 1926. New species of Staphylinidae from India. Part II. *Trans. r. ent. Soc. London*, **1925**: 341–72.
- 1932. Coleoptera. Staphylinidae. Vol. III. *The Fauna of British India, including Ceylon and Burma*. XIII+443 pp., 4 pls. London.
- CHAMPION, G. C., 1925. Some Indian (and Tibetan) Coleoptera (16). *Entomologist's mon. Mag.*, **61**: 101–112.
- DEJEAN, P. F. M. A., 1833. Catalogue des Coléoptères de la collection de M. le Baron DEJEAN. Ed. 2, fasc. 1–2, pp. 1–176. Méquignon-Marvis, Paris.
- GRAVENHORST, J. L. C., 1806. Monographia Coleopterorum Micropterorum. 216+236+13 pp. Gottingae.
- REITTER, E., 1887. Insecta in itinere Cl. N. PRZEWALSKII in Asia Centrali novissime lecta. VI. Clavicornia, Lamellicornia et Serricornia. *Horae Soc. ent. ross.*, **21**: 201–234.
- SMETANA, A., 1988. Revision of the tribes Quediini and Atanygnathini. Part II. The Himalayan region (Coleoptera: Staphylinidae). *Quaest. ent.*, **24**: 163–464.
- 1995. Contributions to the knowledge of the Quediina (Coleoptera, Staphylinidae, Staphylinini) of China. Genus *Quedius* STEPHENS, 1829. Part 2. Subgenus *Microsaurus* DEJEAN, 1833. Section 2. *Bull. natn. Sci. Mus., Tokyo*, (A), **21**: 231–250.
- 1996 a. Ditto. Part 3. Genus *Quedius* STEPHENS, 1829. Subgenus *Microsaurus* DEJEAN, 1833. Section 3. *Ibid.*, **22**: 1–20.
- 1996 b. Ditto. Part 5. Genus *Quedius* STEPHENS, 1829. Subgenus *Microsaurus* DEJEAN, 1833. Section 4. *Ibid.*, **22**: 113–132.
- 1997 a. Ditto. Part 6. Genus *Quedius* STEPHENS, 1829. Subgenus *Microsaurus* DEJEAN, 1833. Section 5. *Ibid.*, **23**: 51–68.
- 1997 b. Ditto. Part 9. Genus *Quedius* STEPHENS, 1829. Subgenus *Microsaurus* DEJEAN, 1833. Section 7. *Elytra, Tokyo*, **25**: 451–473.
- 1997 c. Ditto. Part 8. Quediini collected by S. UÉNO and Y. WATANABE in Yunnan. *Ibid.*, **25**: 129–134.
- 1999. Ditto. Part 13. Genus *Quedius* STEPHENS, 1829. Subgenus *Microsaurus* DEJEAN, 1833. Section 8. *Ibid.*, **27**: 213–240.
- 2001 a. Ditto. Part 19. Genus *Quedius* STEPHENS, 1829. Subgenus *Microsaurus* DEJEAN, 1833. Section 11. *Ibid.*, **29**: 181–191.
- 2001 b. Ditto. Part 20. Subgenus *Microsaurus* DEJEAN, 1833. Section 12. *Ibid.*, **29**: 193–216.
- STEPHENS, J. F., 1829. The Nomenclature of British Insects; being a compendious list of such species as are contained in the Systematic Catalogue of British Insects, and forming a guide to their classification. 68 columns. Baldwin & Cradock, London.

---

*Elytra, Tokyo*, **30** (1): 151–152, June 30, 2002

### 刊 行 物 紹 介

DNAでたどるオサムシの系統と進化. 大澤省三・蘇智慧・井村有希著, 264 pp. 哲学書房, 東京. 定価 9800円.

遺伝子の本体であるDNAの研究成果について, 最近ではまず疑いの目で見ないだ

ろうが、本書の「まえがき」にあるように、つい一昔前まで、それは魔女の呪術を見るような目で見られていたか、あるいは無視されていたものである。

本書は、昆虫を材料とした分子系統進化学をつねにリードしてきた著者らの研究成果を集大成したものである。第1章「オサムシ研究への道のり」では、研究を始めた経緯や、多くの支援者を得て研究が進展していく様子が語られる。第2章「材料の収集と採集記」には、世界中のオサムシの分子系統解析用標本を収集する苦労が記されている。オサムシの宝庫である中国四川省や日本のオサムシ相にも関係の深い韓国での採集記は、分子生物学とは疎遠なオサムシ愛好家にも楽しく読めるはずである。第3章「分子系統樹」は、DNAを用いた系統解析の基礎を説明している。第4章「オサムシ亜科の系統と分布」では、オサムシ科全体のなかのオサムシ亜科の起源と分岐年代が推定される。第5章「オサムシ亜科の系統各論」では、世界中のオサムシ各群の系統関係、第6章では、その結果に基づく分類の再構成が提示される。第7章は日本列島におけるオサムシ相の成立について述べられ、第8章ではその各系統について、列島内での種、亜種分化パターンを交えて語られている。

第9章で著者らは、以上の系統解析結果から推定されるオサムシの多様化パターンについて述べているが、これは総合考察ともいえる、たいへん重要な部分である。彼らは、まず第一にオサムシの属レベルでの「一斉放散」が起こり、続いて中、小規模の放散、さらには単独の分岐が起こった、と推定する。そしてオサムシに見られる極端な形態変化は、徐々に起こったものではなく、急激に起こったと推定される点を強調する。さらに、いくつかの実例を挙げて、オサムシに起こった平行進化と収斂（著者らは同所的に起こった平行進化をこう呼ぶ）について解説した。このなかで示された、チリオサムシに見られる色彩の収斂現象は見事である。結論として、オサムシの進化、多様化は、古い時代のごく短期間に起こったと思われる爆発的な放散、すなわち「動」の時代と、それに続く、長い時間ほとんどなんの変化も生じない「静」の時代の組み合わせである、とした。これは、他の動物群にも共通する可能性の高い、きわめて重要な進化のパースペクティブであると評価できるだろう。

オオオサムシ属 *Ohomopterus* の系統に関して、著者らが主張してきたタイプスイッチング仮説と、他のなんんかの研究者によって提示された、交雑によるミトコンドリアDNAの水平移動説との、大きく分けて2つの説が論争を続けてきたことは、ここ数年の甲虫界の大きいトピックの一つだった。本書では、西日本の本属について、水平移動説を代替仮説の一つに加えている。さらに、とりわけ複雑な様相を呈している近畿、中部のファウナについても、水平移動を仮定せずには説明がつかなくなっているようだ。これらを含め、分子時計による年代推定など、まだまだ検討を要するテーマがオサムシ研究には残されている。むしろ分子系統が明らかになることによって、あらたな問題が生み出されたといえるだろう。しかしそれこそが、著者らの研究なくしては決して導き出し得なかった、科学のおもしろさではないだろうか。

(野村周平)